

躍進！
又躍進！！
に
天洋石鹼の
賣行激増
經濟なそして徳用な石鹼
一日の汚れを泡立の好い
ツルヤ石鹼で.....

一ケ拾錢
ツルヤ
四丁目
電話百四十番

蚊取線香は
櫻印が一番
よくきく
平町四丁目
小野屋藥店
電話一四四番

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病
林病 十二指 腸虫病
村松 胃性病 腸病
院醫科 (七〇一話電町南平)

小名濱出張所開業
本日より開業仕候間
御取引願上候
昭和四年七月廿三日
株式會社 **七十七銀行**
小名濱出張所
石城郡小名濱町上町一六
(電話五十四番)

腦神經病 催眠藥
サポリン
夜良く寝れぬ人
どうも頭がボンヤリする人
一、老衰を嘆く人
一、記憶減退の人
一、性力弱き人
特約店 平町三丁目局前田町分店
宇佐美藥局
藥劑士
電話四二九番

耳鼻咽喉科専門
場所 (舊診療所裏通り)
合津醫院
平町仲田町(電話五五九)

◆露披業開◆
科齒
科外腔口
般一科齒
神谷齒科醫院
日本齒科 醫學士 神谷 辰夫
平町古鍛冶町八十八

日刊發行部編輯人 川崎文治
本社下町番地(電話六三〇番)
印刷部 電話六三〇番

定價 一月五錢 三月十五錢 半年三十錢 一年六十錢
廣告 五字十二行 一日一錢 三日三錢 五日五錢 十日十錢 一月二十錢 一月以上另議
印刷部 電話六三〇番

刊夕日三十二月七

洋生句帳(洋生會七月例會)
風鈴
◇風鈴や湯殿へ通る長廊下 文 狂
◇風鈴の縁に涼味の迫りけ 松 堂
◇風鈴や亡き子の聲をふと 思ふ 一 夢
◇風鈴やなべて端居の好も しき 萬 袋
◇風鈴や晝寝の夢のおぼつ かな 霧 笛
◇風鈴に林泉の風動きけり 天 仙
◇風鈴や打々躍る池の鯉 閉 月

△風鈴や富士を見とほす軒 下の 茂竹樓
△雨外れし軒や風鈴動かさる 同
△風鈴一つ聲ある嵯峨の閑 居かな 曉 美
△風鈴や月に聲ある宵の軒 同
△風鈴にいつか寝落ちし子 を抱く 何 鳴
△風鈴や松に雨應く濱節 同
金龜子
△金龜子扇にのせて這はせ けり 文 狂
△金龜子句座の灯籠びめぐ る 閉 月
△戀に泣く文とは知らず金

龜子 霧 笛
△金龜子月は五更の窓邊か な 曉 美
△金龜子なげうちし闇の深 さかな 何 鳴
△金龜子二つとなりて灯に 狂 同

看護婦派出の求めに應ず
平町南町
看護婦會
電話三〇七番

警城セメント會社特約店
久全屋道具店
警城平町五丁目 電話九番 一三九番
▽良品廉賣し勝る商畧なし△
▽確實敏捷は釜屋の生命なり△

學生夏服
1・2年用.....85 錢
2・3年用.....95 錢
3・4年用.....105 錢
4・5年用.....115 錢
5・6年用.....125 錢
高等科用.....160 錢
中學生用.....240 錢
各種子供服 夏帽子
ネクタイワイシャツ取揃
五丁目 電話三五三
刊夕ヤ

太田三郎妻ツル子儀永
々病氣の處養生不相叶昨二十二
日午後四時死去候に付此段爲御
知申上候
追而葬儀は來る二十四日午後二時石城郡
小名濱町佐藤作平宅出棺同地浄光院に埋
葬可致候
昭和四年七月廿三日
嗣子
佐藤 忠平
水野 順一
水田 敬一
太田 義郎
外親 同

平町南町
吉田眼科醫院

石城地方の産米

昨今は保合氣味 但し先高見込無し

石城地方米値段は本月初旬以来の高温晴天が因となつて連日釣瓶下し底なしの状態を呈しつゝ、あつたが二三日前より辛くも踏止めもち合ひを續け幾分安堵の状を示すに至つたが尚今回の雨により稲作はいよゝ良好となつたのでもち合ひも一時の小康に終るらしく日下の相場は四等一駄二十一圓五十錢見當で持米者は手離すには手離せず決算期を控えて大弱りの體である

新舞子の キャンプ生活 保勝會で歓迎

日本百景の一に選ばれた新舞子海岸に石城郡草野村青年團並新舞子保勝會主催の下に來る二十八日から八月一日までキャンプを開設することになつた申込は二十五日寝具用毛布ラント等は無料で提供参加者は男女を問はず百五十名でこの種の生活を欲するものより期待されてゐる

泉村で

古墳を發見

崩壊した跡から

石城郡泉村大字泉字小山地内の字所有地の一部が過般突如として崩壊したところ崩壊した跡より約四坪三坪二坪位の洞穴が三つ現れしかもその中に赤錆た刀或は石劍類の古武器が澤山あるのをこの程に至り村民が発見したので目下古墳かそれとも穴居時代のものかを研究中である

在京者の

木村氏送別會

工業クラブに

代議士木村清治氏萬國議員商事會議に列席のため近日渡歐につき在京石城青年會主催にて十九日午後六時より丸の内工業俱樂部に於て送別會を開催した、會するもの星一、中野浩忠、東京市教育局長藤井利譽、菅波龜吉、遠藤精一の諸氏約三十有餘名デザートコースに入るや、主催者を代表して田邊當義氏挨拶を述べ中野藤井、星の三氏は木村氏の友人として懷舊談にかねて祝辭を述べ最後に木村氏の謝辭あり歡談裡に午後九時

散會した因に參會者一同より木村氏一路平安を祈る爲め明治神宮に祈願しその御守りを同氏に贈つたが近來になき情味ある美しき會台であつた

半谷氏移轉 國民新聞平支局半谷政喜氏は大町廿三番地に新築中の家屋落成した爲め此程材木町から同所に移轉した

十七歳の孤兒

日暮里から植田迄

去る十七日午前十時頃平驛附近を徘徊し居たる十六七才の少年あるを青田刑事不審と認め平署に引致取調べたる所同人は山形縣生れ鈴木正吉(と)と東京養育院巢鴨分院に收容中十四日東京府下大塚驛電車の終點附近書籍店から十數冊の雜誌を萬引逃走し日暮里驛から植田驛迄無銭乗車を爲し平町や飯野村等を徘徊し居たる者にて飯野村大字下荒川鈴木文彌方から一圓五十錢

鷄九羽窃取

磐炭の支柱夫

石城郡内郷村大字宮字宮の澤磐城炭礦支柱夫群馬縣生れ岩島徳太郎(と)は去る廿二日午後二時頃同村字金坂雜貨商鈴木要方養鷄舎から白色レグホン雌九羽(代金廿八圓)を窃取し平署小山田桑原兩刑事に檢舉され目下餘罪ある見込にて取調中

平卓球大會

會場は稅務署

石城卓球會主催の卓球大會は二十八日午前九時から平稅務署樓上において開催される筈でオール平は勿論仙台各方面より一流選手多數參加すべく盛況を豫想されてゐる

平署土用稽古

平警

察署の武道土用稽古は同署が食膳の玉座を占めるやうになりませんが、その漬物のうちで簡単に出來てしかもおいしいものは糠漬ですが糠漬などといふと何故か一般の御家庭ではあまり重要視せず改良も工風もこらされないやうですが試みに糠漬の中へ麴を半箱ばかり入れて見て頂きたいと思ひま

明日の天気

南寄の風 晴れたり曇つたり 驟雨模様

鯨川遊覽船

一團體廿名

石城郡錦村鯨川誘揚會では昨夏始めて流れ清き鯨川に遊覽船をうかべて大成功を來したので今日も廿一日より開始したが一團體廿名とし遊覽船に曳網一隻を付

軍艦五十鈴に便乗して

小名濱から鹽釜まで (上)

川崎生

昨年の夏、五十鈴の艦上點呼を見る爲めに乗り込んだ時「これが動き出したらドンナに痛快だらう」と思つたが、一年掛けて、その望みの果される日が來た、

昨年、昨廿二日午前四時半青年團からの諸君と共に壽司詰めとなつた貸切自動車は、朝霧を突いて一路小名濱灣頭に押し進んだ。海岸は既に先着の便乗者諸君に依つて埋められ、我等の軍艦五十鈴は霧に包まれて其の雄姿を見せない、海上は至極穏やかである、小名濱消防組のハシケ船に乗つて沖へ、沖へ……、スツと海上に臙氣に浮んだ五十鈴流石に五千五百噸、デツカイものである

船門から艦上へ……

其處には同行の多田井君から「アノ人だ」と教へられた平町出身の機關長佐々木中佐がニコやかに便乗者を迎へて立つて居られる、僕は佐々木中佐は初對面の人とばかり思つて居たが、名刺を手に入れた中佐が「アツ川崎君でしたか、お久しぶりです」と云はれた事に依つて、古い記憶を呼び起せば、十數年以前何かの宴席で親しく盃を交はした事がある、夫れにしても、佐々木機關長の記憶力の明確さに思はず恥入つて冷汗ビツシヨリ……、同氏を生んだ平町の特權とでも云はうか

平町からの便乗者は同氏の好意に依りて非常な便宜が與へられ、「乗艦證」を持たずに木戸御免の人々も多く、本縣下を始め、茨城、

宮城からの人を合せて便乗者總計六百廿名、乗組員の四百餘と共に艦内には千餘の人々が在る譯だが、ソレ程に人の數が目立たぬ所に軍艦の大きさが判る

甲板には特に天幕が張り渡され、長い木の腰掛が幾つも並ぶ、午前七時である五十鈴は動き出したのだ、アレ綱取岬が後ろへ退く……、船にはニガイ經驗を持つ僕の事だから、船暈を恐れる事一方ならず、持参した食糧の握り飯にも忍かずに二個の梅干をしのはして置いた程だが、思ひは同じ便乗者の面々、アツチコッ

チに船酔ひに就いての話が始まる、イヤ薄氣味の悪さ一方ならず、仁丹を口へ放り込んだテレ隠しに遙か彼方に視線をやれば、其處には白いアメン棒の様に豊間の燈臺が見える(續く)

聚樂館の芝居 既報松本幸四郎門下の松本錦技大一座は愈よ廿五日から初日を開ける筈であるが初日狂言は左記の如くで五日間毎夜全部取替へる由

一番目鞍馬山大だんまり 第二富十三柳扇曾我六藏 第三川中島勝利の山本輝 虎配膳の場第四場平相國 旭の清盛重盛諫言の場